

施設紹介

岩手医科大学附属循環器医療センター

江石 清行*

岩手医科大学は盛岡市の中心部に位置し、盛岡駅から車で5分の距離である。盛岡は新幹線で東京駅から2時間40分と距離に比して交通の便は良好といえる。市内には北上川が南北に流れ、西から雫石川、東から中津川が流れ込んでいる。中津川には今も鮭がのぼってきて、たくさんの死骸の扱いが毎年話題になる。北上川をはさんで北西に標高2038mの岩手山がそびえ、その西側は八幡平山系につながり、東側はなだらかで美しい稜線を描き南部片富士とも呼ばれている。北東には北上川をはさんで岩手山と対するように標高1124mで女性的美しさの姫神山を望む。岩手山と姫神山にちょうど挟まれた北上川一帯が啄木生誕の地、浜民村（現玉山村）である。この岸边に立つと夕日に映える荘厳な岩手山と早出の月を伴った幻想的姫神山を同時に望むことができる。“ふるさとの山、ふるさとの川”は今も変わらない。

附属循環器医療センターは大学創立60周年記念事業として平成6年12月に着工し、平成9年2月竣工、平成9年5月開院した。循環器医療センターは地下1階から地上7階までで、8階から10階までは創立60周年記念館となっている。病院部門の延床面積は13,277.20㎡で循環器科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科を標榜している。一般病棟が6、7階で各47床、計94床、1階のCCUが11床、5階のICUが10床となり総病床数は115床である。循環器科には平盛教授の第二内科の循環器部門の一部が、心臓血管外科には川副教授の第三外科の心臓外科部門がその診療にあっている。常勤医師は19名でその他兼務医師68名、計87名にのぼる。看護婦129名など常勤の職員数は175名となる。麻酔科医は川村講師と門崎医師の2名が常

勤している。外科は川副教授、江石助教授、石原講師以下助手6名の計9名のスタッフである。

当センターは循環器疾患を内科、外科の枠をはずして診療していくことを方針としている。治療方針、特に手術適応は共同のカンファレンスにて決定し、毎朝8時30分からのカンファレンスでは手術症例呈示、手術報告、ICU報告、CCU報告、病棟の新規入院など、センター内での主だった患者の動きを全員が把握できる。また外科病棟にも

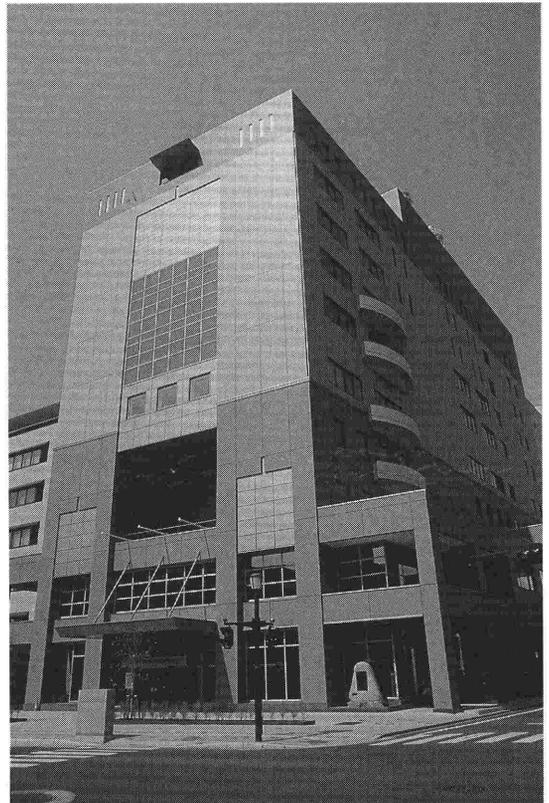


写真 岩手医科大学附属循環器医療センター外観

*岩手医科大学附属循環器医療センター

外科のスタッフとして内科医5名が配属され術前、術後の管理、および術中心エコー、術後のリハビリテーションなどを系統的に行っている。毎朝7時40分からのICU、外科病棟の回診も内科、外科一緒に行い、様々な観点からの評価を行っている。

手術室は2室で、木曜日を外来、回診カンファレンスにあて他の4日2例ずつで週8例を定期手術として行っている。センターでの手術は弁膜症、虚血性、先天性心疾患で、大血管は胸部の人工心肺必要例のみを行っている。98年度の手術症例数は虚血性132例、弁膜症133例、先天性130例、大血管42例の計437例で人工心肺使用症例が392例で

あった。病院死亡は成人ではVSP、LV ruptureの2例のみで、小児で3例、大血管4例であった。

岩手医大循環器医療センターは緊急手術から幕を開け、予想を上回るペースで手術をこなさねばならなかった。職員全員が無我夢中で診療に邁進した1年目であった。2年目の昨年は習熟したプロ集団に成長し、余裕を実感しながらハイペースの手術が流れていった。職員の奉仕ともいふべき献身的診療が施設としての実績を確立した。3年目の今年、さらに個人レベルでの実績が蓄えられることを望みたい。